

## 自衛隊図書室の実態調査

藤森 望

自衛隊図書室には自衛隊員を対象とする教育施設と福利厚生施設の 2 つの役割があり、各役割に特化させた図書室を分けて設置している。本研究ではこれまで注目されることのなかった自衛隊図書室を研究対象とし、蔵書のデータを収集し、その実態を把握することを目的としている。公共図書館と大学図書館の蔵書データも収集し、自衛隊図書室と比較することで特徴を明らかにすることを目指す。

本研究ではまずインタビュー調査と現地調査を行った。インタビュー調査では、管理者や広報官等、図書室の管理について回答可能な自衛隊関係者を対象として行った。内容は、各駐屯地・基地の特性、所属隊員数、管理者の司書資格の有無、蔵書数、貸出体系、予算、利用者数に関する質問である。次に、現地調査では書架に並んだ蔵書の背表紙や貸出カウンターなどの写真を撮影した。撮影した蔵書の背表紙から、サンプルとしてランダムで抽出し、そのタイトルをNDL-OPACで検索した。検索結果から蔵書の刊行年と主題(NDC)を特定し、データ化した。この調査では各図書室の蔵書から250～350冊をサンプルとして抽出した。次に、公共・大学図書館に対する調査を行った。この調査では、各図書館のOPACで分類(NDC)・刊行年代ごとに検索し、各項目の冊数とその割合を調べた。公共・大学図書館は各10館ずつ調査を行った。

まず自衛隊図書室に関しては教育を目的とする第2・第3術科学校図書室と、福利厚生を目的とする霞ヶ浦・松戸駐屯地厚生図書室の計4カ所で調査を行った。分類(NDC)別にみると、第2・第3術科学校図書室ともに社会科学(3)の割合が最も高く、教育に必要な蔵書を中心に収集していることがうかがえた。それに対し霞ヶ浦・厚生図書室の蔵書を分類(NDC)別にみると、どちらも文学(9)の割合が最も高く、隊員に対して健全な娯楽を提供することや、一般教養を身に付けさせることを意識し収集していることがうかがえた。また、術科学校・厚生図書室ともに国防・軍事(39)の割合が公共・大学図書館と比べて非常に高くなっていた。調査したすべての公共・大学図書館の国防・軍事(39)の割合は1%未満だったが、第2術科図書室が8.2%、第3術科学校が13.0%、霞ヶ浦駐屯地が4.3%、松戸駐屯地厚生図書室が2.5%と高く、特徴的であった。

次に、刊行年別の割合を術科学校・厚生・公共・大学図書館ごとに平均して見ると、術科学校図書室は1990年代が最も多く、1980年代が2番目に多かった。厚生図書室では1990年代が最も多く、次に2000年代が多かった。この結果から、厚生図書室の方が術科学校図書室に比べ、新しい蔵書が多いことがわかった。しかし公共図書館の刊行年別の割合を見てみると、2000年代に刊行された蔵書が最も高い割合だった。今回調べた図書室・図書館では公共図書室が最も新しい蔵書が多いことが示された。

(指導教員 辻慶太)